

# 救命処置活動 絵本で語る

日刊 県民福井

2019年3月7日(木)

## NPO「命のバトン」(福井) 題材

救命処置の普及活動に取り組み、福井市のNPO法人「命のバトン」の活動を題材にした絵本の製作が進められている。防火や防災をテーマにした一人語りを上演している東京都のグループが企画。文章はすでに完成しており、絵の描き手を募集中。関係者らは絵本を通じて、命の大切さを子どもたちにも分かりやすく伝えたいと意気込んでいる。

(坂本碧)

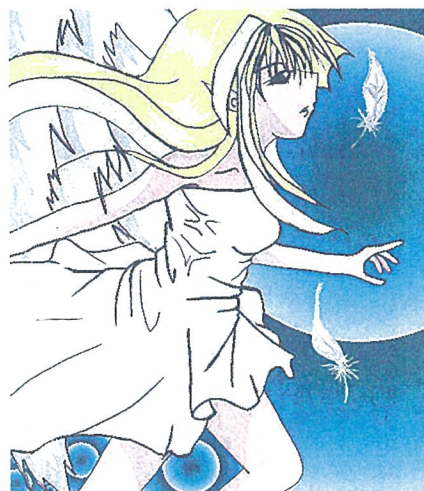
企画したのは「防災一人語り」推進グループ。メンバーの女優や歌手が、複数の登場人物がいる脚本を一人で演じる「一人語り」という形式で、全国で無料で上演している。これまでに火事や震災を題材に十作品を作り、さまざまな人たちに防災意識を高め

てもらえるよう、英語版や落語の作品を作る取り組みもしている。

「命のバトン」を題材にした一人語りの作品を、二月に東京で初演。五月二十五、二十六の両日、福井市内での上演も決まっております。その脚本を基に「いのちのばとん」の時、学校の運動会のリレー

## 防災団体企画、描き手募る

絵本の表紙になる予定の沙織さんが描いた絵



で走り終わった後に倒れて亡くなった。絵本では悲しみに暮れる「ママ」が、命を助けるAEDやCPRの方法と、「命を大切にしよう」というメッセージを伝えている。

本文では、救急車到着までの間を「いのちをつなぐじかん」で表現するなど、分かりやすい言葉で命の大切さを伝える。活動に賛同した東京都の音森さん、ペンネームが

執筆した。保育士で、子どもに絵本を読み聞かせることもある川崎さんは「救命を伝える絵本はほとんど見たことがない」と話し「実際に救命措置ができるようになるには時間がかかるけど絵本に触れることが救命のスタートラインに立つきっかけになれば」と願う。

「防災一人語り」推進グループの加藤雅代表(左)は「絵を描いていただけの方にも防災の輪が広がれば」と応募を呼び掛ける。絵本は年長・小学校低学年向け。表紙には沙織さんが描いた絵を載せる予定。絵本は完成後、同グループのホームページに「文化と防災の合体」で検索し掲載する。本文はグループのホームページで公開している。加藤雅代表 090(3224)3611